

平成29年度第4回氷見市行政改革推進市民懇話会会議録

- 1 開催期日 平成30年2月26日（月）
 - 2 開催場所 市役所A棟2階全員協議会室
 - 3 会議時間 午後3時～午後5時
 - 4 出席委員 伊藤宣良、禪野葵、永田徳一（高島達 代理）、寺下利宏、堂端誠作、松原勝久、屋敷夕貴、猶明孝信、米田良憲、田中英雄、釣賀節子、本川和枝、山口新輔、小伏脇健郎、圓山留美 計15名
 - 5 欠席委員 糸秋男、岩崎章夫、濱谷英俊、村江省三、森本太郎
 - 6 市出席者 林正之（市長）、前辻秋男（副市長）、山本晶（教育長）、藤澤一興（市長政策・都市経営戦略部長）、高橋正明（総務部長）、山口優（まちづくり推進部長）、草山利彦（市民部長）、表良広（建設農林水産部長）、荻野直樹（防災・危機管理監）、荒井市郎（教育次長）、川崎保広（消防長）、出戸勝教（企画政策課長）、川淵宏朗（総務課長）、京田武彦（財務課長）ほか
 - 7 傍聴者 1名
 - 8 案件 (1) 配布資料の説明
(2) 質疑応答、意見交換
- <協議資料>
- ・氷見市行政改革プラン（案）
 - ・氷見市公共施設再編計画（案）
 - ・氷見市公共施設再編計画（案）の概要について
 - ・施設ごとの将来の方向性一覧
- 9 発言内容 別紙のとおり

発 言 内 容

会長

ただいまから、平成 29 年度第 4 回氷見市行政改革推進市民懇話会を開催いたします。

委員各位には、ご多用のところ、ご出席を賜り、誠にありがとうございます。

さて、今年度、年が明けましてから大変な大雪で皆様には除雪等で大変であったかと思えます。

ようやく天候も良くなりまして、本当に素晴らしい良い天気恵まれ雪解けが進み、春日和になってきたことを感じます。

林市長には昨年 4 月に就任されまして、もう 10 ヶ月に達しています。その間、子育て支援、4 つの公共空地のグランドデザイン、また、世界農業遺産に市民が一丸となって取り組んでいくことなど、一生懸命進めているところであります。

今日の行政改革につきましても、やはり今後の氷見市にとって大事な計画であり、この後、委員の皆様には健全経営をしていくための忌憚のないご意見をいただきと思えます。

本日は、氷見市行政改革プラン（案）と氷見市公共施設再編計画（案）の二つの計画が示されます。

なお、公共施設再編計画は、行政改革プランの実施計画における重要な取り組みとして位置づけられているものです。

この二つの計画について議論を深めていきたいと思えます。

なお、本日の会議は、2 時間程度を予定しております。

最初に、市長からご挨拶をいただきます。

林市長

委員の皆様におかれましては、本日は、何かとご多用のところ、行政改革推進市民懇話会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

また、委員各位におかれましては、いろんな分野において、日頃から市政の発展に多大なるご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

1 2 月に開催いたしました、第 3 回市民懇話会では、委員の皆様からいただいた貴重なご意見を基にとりまとめた「氷見市行政改革プランの基本計画（案）」について説明させていただき、ご議論をいただいたところであります。

本日は、その基本計画（案）を一部変更することと、その基本計画を具体化する実施計画（案）について、また、平成 28 年 3 月に策定しました「氷見市公共施設等最適化基本方針」に基づく個別の公共施設等に係る管理計画であります、「氷見市公共施設再編計画（仮称）」についてご説明させていただき、ご議論を賜りたいと存じます。

これらの計画は、将来にわたり本市の財政の健全性を確保していくための重要な計画であり、本日のご議論を踏まえまして、来月末までに計画を取りまとめることとしております。

なお、本市民懇話会は、プランの策定に関しては、本日の開催を最終とさせていただくこととしておりますが、プラン策定後は、引き続きその進行管理等について委員の皆様へ、ご報告させていただくものであります。

委員各位におかれましては、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申しあげます。

一方で、去る2月7日には、氷見市総合計画審議会から第8次氷見市総合計画後期基本計画についての答申をいただきました。

答申では、この後期基本計画を、第8次氷見市総合計画の総仕上げとなる計画であるとともに、次期総合計画である第9次氷見市総合計画に向けた基盤づくりとなる重要な計画と位置づけており、具体的には、金沢医科大学氷見市民病院におけるがんセンターの整備や四つの公共空地の利活用の推進、子育て世代支援包括支援センターの設置、小中連携教育や外国語、ICT教育の推進、新文化施設の整備などが重点施策として掲げられております。

そして、答申に際しては、財政の健全性を維持して計画を推進することを附帯意見としていただいたところであり、行政改革は進めながらも将来の市民の幸せのための必要な投資を併せて行っていきたいと思っている所存であります。

結びに、本日のこの懇話会が実りある会議となりますとともに、本日ご出席の皆様方のご健勝、ご多幸を祈念申しあげ、挨拶とさせていただきます。

本日は、どうか、よろしくお願いいいたします。

会長

ありがとうございました。

次に委員をご紹介させていただきます。

高嶋社会福祉協議会会長の代理として永田様にご出席いただいております。

なお、糸委員、岩崎委員、浜谷委員、村江委員、森本委員につきましては欠席のご連絡をいただいております。

協議案件に入ります前に、前回の会議の振り返りを行いたいと思っております。

事務局から説明をお願いします。

総務課長

(「前回議事録」の説明)

会長 それでは、協議案件に入りたいと思いますが、本日の議事録につきましては、これまでの会議と同じく、発言の要点を、委員名を伏せて公表したいと思いますのでご了承よろしく申し上げます。

 議事録の作成及び公表に関する事務処理につきましては、事務局の方でお願いしたいと思います。

 本日の協議案件は、氷見市行政改革プラン（案）と氷見市公共施設再編計画（案）の2件です。

 事務局から2件について一括して説明をお願いします。

総務課長 （「氷見市行政改革プラン（案）」の説明）

都市計画課長 （「氷見市公共施設再編計画（案）」の説明）

会長 それでは、ただいまの説明に対する質疑及び意見交換に入ります。
 ご発言をお願いします。

委員 行革プランの 42P、自己改革する行政体の構築、(1)市民団体、NPO、企業等の様々な主体と連携する行政の確立の「イノシシ被害等の減少」。
これは「イノシシ」だと思いますが、イノシシ被害大変だと思いますが、信州、長野の方でもジビエ料理で結構まちが盛り上がってきたような気がします。害だけではなくて、利活用するようなことを考えれば、転換できないのかなと、駆除とその利活用というようなものも入れていただけないかなと思います。

会長 イノシシ被害については3日前ほどに県の被害状況が新聞で発表されていきました。昨年度の被害額は約3千8百万円、今年度は1月末で7千万円程度と発表されていきました。市においても150万円から200万円の被害が出ている訳です。今委員からイノシシの利活用と意見がありましたが、イノシシの肉は昔は珍しいものでしたが、今はあげるよと言われても敬遠されている方もいるようです。うまく利活用することについていかがでしょうか。

委員 参考として、氷見高校の水産科のケースですが、ブラックバスを数日、真水で育てると味がスズキになるんです。高校では氷見学もやっていますので、氷見らしい利活用を学生に考えてもらうという予算をかけないでやられたらどうかなと思います。

林市長

イノシシの利活用は私も大切なことと考えています。羽咋にイノシシの処理場があるんですが、視察に行つてまいりました。そこでは、1時間以内で内蔵が破裂していないような、1時間以内で取りに行けるといふ条件のもとで年間300頭ほど処理をして、年間1千200万円だったか、1千600万円だったかの収入で、トントンでやっていると。その肉をイノシシのロースとか肉でも売っておりますし、道の駅羽咋では、それをウインナーで売っておりますし、既に石川でそのような例もありますし、氷見高校の食品科学科ですか、私も昨年、イノシシ肉のチャーシューを試作したとこのことで食べてきました。大変美味しかったです。去年、名古屋の名城大学の農学部と氷見市と提携協定を結びまして、大学の食品科学の技術も今後、例えば氷見高校のイノシシの肉の活用について共同研究するような風にもしていきたいと思ひます。

委員

市税の収納率を98.5%から99.0%としていただいたことについては大変ありがとうございました。意見は通るものだなと思ひています。公共施設再編計画で保育所整備、保育所が重点実施事業として掲げられています。氷見市公共施設再編計画(案)の26Pに公立保育所が載っています。公立保育所の再編統合は、財政的にも大きな効果を示しています。各地区にあった保育園が現在5園、学校と比べれば大幅に統合が進んでいるということ行政機関を含めて敬意を表したいと思ひます。そこで26Pに公立6園の平成29年度の在園数が出ております。上伊勢32人、十二町20人など出ております。この公立保育園の再編計画の歴史を紐解きますと、平成14年度に有識者及び保護者等で構成する委員会を立ち上げ、討論した記憶がございます。その時点では、よりよい保育をするためには、小規模な保育では効果がでない。教育委員会での複式学級と同じでありまして、保育所の代表的な年齢は3歳、4歳、5歳です。それを1年間に大変成長する期間にぶっ込みで一緒に保育するということが、保育環境としては良くない。その保育年齢に応じた保育をするというのが、児童の心身の成長、育ちの観点、それと、小規模保育であれば、0歳児保育、延長保育、途中入所、病児保育といったことが保育士の人数の関係上、大変やりにくい。そういった関係で公立保育所は、延長保育もやる園数も少ないですし、サービスの面では民間保育所より大変劣っている。そういったことを考えて平成14年度の委員会では、定員30人以下は、統廃合すべきというような提言を当局に行った。この報告を受けて平成17年9月には氷見市公立保育所民営化実施計画が策定されて統廃合を進めてきて、現在5園になってきているわけでありまして。定員数に戻りますが、上伊勢は32人、朝日丘小学校の跡地に保育園をつくる話もありますが、上伊勢の老朽化等を考

えますと、当然、オープンにはそこに一緒に行くことが考えられますが、統合の話しを地元を持っていきますと、卒園するまで待ってくれとか、明和の場合もそうだと思いますが、通常3年はかかるということでありまして、3、4年先を見越して地元におろすとか、動くとか、あと、十二町の20人とか、宇波の22人とか、より良い保育ができるわけではないわけですから、保護者のニーズに応えられない保育所は早く応えられる保育所に統廃合してもらえればというふうに思います。重点的に取組む公立保育園の再編整備を先程この1枚の資料で説明していただきました。それで、公立保育園のうち、1園だけ公立保育園として残すと書いてあります、その理由は、民間保育所への指導・監督的な役割を担う公立保育所は不可欠である。これは分かります。じゃ、保育所だけ、そうなんですか。介護事業所も山ほどあります。障害者事業所も氷見には山ほどあります。介護事業所も定員から言えば2000人以上あります。そういった面では保育所より多い訳です。じゃ、介護事業所も指導・監督する機関は必要ではないんですか。保育所だけ、こうした指導・監督する機関がいるのですかという点です。

先程言ったように、公立保育園を1箇所だけ残して指導・監督的な役割というのは平成17年9月に公立保育所民営化等実施計画で言われたことが最初なんです、平成17年から12、13年経っています。総合計画でさえ10年間で書き換えて、基本計画は5年毎に見直します。通常計画は5年で見直すんじゃないでしょうか？何故、そういうことを言うかということなんです、新町の定員を見ていただきたいんですが、平成17年当時は90人以上の利用者数がいた訳です。ある一定規模の利用者数がないと保育サービスができないわけです。そういった観点から、富山市も民営化を行っていますが、対象は90人以上です。90人以下であれば経営できない状況です。新町は平成29年度で58人まで落ちてきました。これがまた増えるということはず、考えられないですね。どんどん落ちてきますと、保育所として体をなさないというのがあります。どうしても体をなすのであれば、相当な市単独事業費を積み込む必要があります。新町の収支状況を、保育所運営というものは、国2分の1、県4分の1、市4分の1の決まった運営費で行うんです。民間保育所はそのとおりの運営費で行いますが、公立保育所はその2倍、3倍、4倍かかっています。その分は市の税金の上乗せです。一旦決めたことはそのまま押し通すというのもいいんですが、収支計画、今後の児童数も勘案して、もう一度検討されてみたらどうでしょうか。新町保育園は今後、発達障害等のための機能を付け加える計画になっていますが、いかんせん本体の保育所定員があまりにも少ないので、果たしてそれが良いかどうか、まあ、発達障害等の支援機関を

つくるというのは大変いいことですので、そこは子育て支援センターに併設するとか、いっそ、民間の保育所でやっていただくとか、いろんな案があるかと思います。要望として意見を申し上げさせていただきます。

会長

保育所の統廃合については3年前から計画を地元を下ろして欲しいこと、また公立保育園については、民間保育園の指導・監督的な役割として公立保育園のことについても質問があったかと思います。その質問に対し回答をお願いします。

市民部長

保育所の民営化については委員さんがおっしゃられた通り、平成17年度に計画が作成されておりまして、公立保育所の民営化を順次推進するとしながらも、民間保育所の指導・監督的な役割として公立保育所が数ヶ所程度必要と定められた訳でありまして、順次再編されまして、現在5園となっています。できれば民間保育所で全部やっていただければいいんですけども、全国的な保育士不足というのもありまして、特に、中途入所、未満児保育は民間保育所で対応できないということもでてきますので、待機児童を発生させないという意味からも公立保育所の役割があるというふうに私は思っています。もちろん保育・幼児教育の牽引ということでは、民間保育所ではそういった専門スタッフの確保、特別支援、病児保育、或いは発達障害といった多様な保育ニーズへの対応がなかなか難しいのではないかと考えていまして、私どもとしましては、中核保育所を1ヶ所は整備したいと考えているところであります。今のところ私案ではありますけれども、老朽化の著しい新町保育園を改築して中核保育所として位置づけたいと考えております。また、他の保育所についても民間保育所の整備状況、地域性を十分考慮しながら数年先を見越して進めてまいりたいと考えております。特に教育もそうですけれども次代を担う子ども達のより良い保育環境をできるだけ提供するだけの投資は、私は惜しむべきではないと考えていますので、ご理解をいただきたいと思っています。

委員

希望ですが、是非、民間と公立と一緒な土俵で競争すること。民間保育所は事業運営費の範囲内で行っています。先程言いましたように、新町保育園は収支状況をどれだけ市単で上乗せしているか、それを出していただければ一目瞭然ですので、一緒な土俵で勝負していただきたいということです。

委員

今の保育園の話の続きなんですけれども、市で行う保育園の方が、民間の保育園の指導・監督的な立場でという役割を担うとのことですが、私

はよく数字的なものは把握していないんですけども、今の傾向としては純粹な保育園というのは氷見市にどれくらいあって、保育園児というのがどれくらいいるのかわからないですが、傾向としては、幼稚園と保育園一体化、認定こども園という流れになっています。これは氷見市もそのようになっています。するとそうした幼保一体化されている認定こども園さんの指導・監督もこの氷見市がもっている保育園さんがその役割を担うのか、或いは、担えるのか、そういったことをお聞かせいただきたいと思います。

市民部長 もちろん、幼稚園と保育園が一体となった認定こども園についても指導・監督的な役割を私どもは担います。

委員 感覚が違ってきませんか。認定こども園は幼保一体化しているわけですから、厚労省と文科省のあれですよ。保育園はもともと厚労のほうではなかったですかね。そこらへんを越えてもできるという認識ですか。

子育て支援課長 例えば氷見市に保育所5園あります。認定こども園は10園あります。認定こども園では保育部門と幼稚園部門・教育部門ですねをやっております。氷見市の保育士も幼稚園部門・教育部門と保育部門の勉強も行っていきます。ですから今度指針も変わりますので、研修も積んでおりますので、人材的には十分指導的立場を担えると思います。

委員 指導的立場を担えるということと、実際指導できるというのは別だと思うんですが違いますか。

委員 私のところでは、保育園の運営に携わっています。私個人の考えですが、保育園にこれからの将来の氷見を背負っていく幼児教育であるとか、保育園であるとか、公の税金でやるべきだというのが私の持論です。やっぱり民間企業だと、他の委員が言われたように、市役所と同じ土俵で保育園を運営していくのは、根本的に無理がある。収入と支出があるでしょ、ですからやっぱり私は氷見で公的な部分でそういうのがあって我々民間のやっている保育園事業とかそういうのをサポートしていただくというのが出来るか出来ないかは別ですよ、端的に言うと、国や県からおりてくる収入で市役所並みの、我々丸ごと出したって、人件費とか維持できないです。ですから同じ土俵で、民間と公的なセクターではできないです。私は違うと思います。これは民営化ですから我々引き受けましたが、とういう中で

保育園というものを考えるなら少し公的なセクターが我々民間の保育士とか、また人材も、もちろん市役所から園長も来ていただいているわけですからそういう形がいいのかなと保育園についてはそう思います。

会長

同じ土俵という形で二人の委員からも疑問点がだされたわけですが、私もちょっとわからないんですが、民営は民営のいいところを伸ばす、また、公営は公営のいいところを伸ばしていった方が良く思うんですが、同じ土俵というとなかなか難しいと思いますので、そういう風にもっていったらどうかなと思います。

林市長

私も流れとしては、民間でできることは民間でやっていただくというのが望ましいと思っておりますが、教育、保育も教育の一環だという風に思っています。

保育園に公立があつて、老人福祉施設に公立がなくて良いのかという議論はあるかもしれませんが、若干、教育、保育については、例えば、公立の保育園であれば先生方はプロとして、プロ意識のなかでずっとやっていくなかで、いろんな研究、調査、どういった勉強のやり方が良いのか、そういった研究もできますし、また成果を講師として民間の保育所の先生方に伝授していく、そういった長期的な形として、やはり一つは、公立であるべきではないかなと、また、先程も出ていましたが、保育園で、発達障害の方であるとか、難しいようなお子さんもおられますので、途中入所であるとか、調節弁としての、そういう公的機関として果たすべき役割として一つはあるべきかなと思います。平成17年のときの形で、公立を一つ残そうとすることで、その計画を踏襲しているのではなくて、一つの考えのもとで、私もそういうことを抜きにしても一つは公立を残すには望ましいと考えています。国では文科省、厚労省、こども園で管轄が違ふと言っても、市としては国の補助金とかいろんなお金の流れが違ったとしても、市としては一つの中で、そういう分け隔てなく、保育園の先生方も教育の方の勉強も、保育の方の勉強も頑張っていますので、総合的な形で両方、教育についても公立の先生方には是非、プロとしての意識を持っていただき、そうした技術を伝授していく人、流れとして残していきたいなと思います。

委員

行革プランについてですが、資料 24P の中長期財政見通しは、10P の見通しから、23P での改策を入れたものなんですよ。一つ聞きたいのは、15P の債務総額に315億円以下に抑えられますが、この年度推移を見ることは出来ないのでしょうか。

もう1点は、公債費の借り入れ利率を低くすることで公債費を減らして

いくとありますが、老婆心ながら今の超低金利は大変な状況なので、いつかは安定水準に長期金利が上がっていくでしょう。例えば、300億円で1%長期金利が上がると、我々は100ベースポイントといますが、3億円になるでしょう。そういう金利の状況も毎年毎年見ていかれた方がいいと思います。金利はいつかの時点で必ず上がります。この債務総額はこの表からは出て来ないんですか。難しいんですか。

総務部長

分かりにくい表になっています。24Pにはそのうちの一部の数字として市債残高がありまして、この中には臨財債を含むという注意書がありまして、この臨財債というのは臨時財政対策債ということで、この元利償還は国の方で全部、地方交付税で見えておりますというものですから、純粹に氷見市が返さなくてはならない債務負担というのは実は外させていただいている部分です。また24pの数字は一般会計だけでありまして、15pの方は下水道でありますとか病院でありますとか公営企業に係るものを含んでおるものですからその辺の比較が確かに分かりにくくなっております。これから、大型投資をいくつか想定して居る訳ですが、特に15pの数字がそれでも上がらないっていうのは、下水道の事業を基本的に止めておるといふか、普及が行き渡ったことから下水道の事業の債務総額がどんどん減っていきますので、相殺されることで315億円以下を見込んでいるわけでありまして。この15pの中に会計別の内訳とか、臨時財政対策債の金額とかいふものを開め示させていただいてその内訳が分かるようにその推移も含めて入れさせていただきたいと思います。

委員

分かるようにしていただく必要はないんですけど、債務総額という把握はしておられて、金利も見られたらいいというそれだけです。

総務部長

金利が将来ずっとこのまま低金利というのは相当難しいと思いますが、国自身が金利が上がってしまうと国の財政はもっと大変なことになりますので、その辺は国の方でコントロールされるのかという風には思っています。あと、私どもの債務の中のほとんどが国の方で元利償還を、割合が違いますけど、見てもらえるというのがありますので、金利が上がればその分普通交付税が上がるというそういった要素もあります。

委員

いい制度ですね。

委員

沢山のプログラムがあって大変一生懸命にやっているなと感じます。全体を通じて氷見市は少子高齢化が進んでいますし、つい最近、聞いた

んですが、高岡地区、特に氷見市の雇用数が減っている。特に高岡と氷見が減っていると言われてビックリした。富山労働局のデータを調べたがそういったことを裏付ける資料がなかった。データは公表していないけれど十年間の推移のデータをいただき確認できたんですけど、今のIT化でこの中にもありますが、データのオープン化をやっていきたいと、例えば氷見市に興味を持って移住したいなというときにホームページか何かを調べるわけです。そういった方々が氷見はどういったところかと、悪いなら悪いなりにいいと思うんですけど、調べるんです。今日来る前に氷見市のホームページを見てきたんですけど、いろんなデータが見えてない訳です。隠しているわけではないんでしょうけど、一生懸命データを公表、公開しようという努力は足りないのかな。34pの26番で、オープンデータの実績が0件となっていますけれども、これを33年度末には56件とありますけれども、他の市町村に先駆けて、多分これは競争だと思うんですね、真剣になっていろんなデータを、氷見市そのものもいいも悪いもない赤裸々な状況が市民にとって分かるように、或いは外部の人から見ても、ああいいところもあるじゃないかとか、我々がデメリットとするところが、或いはメリットかもしれないので、データがあるということが判断していく入り口ではないかと、このオープンデータ化というものを市に先駆けて、或いは県や国に働きかけて氷見市としてのオープンデータを作っていた方がいいんじゃないかと思えます。

あと全体的に行政改革プランを見ていったときになんとなく足りないのは、人口が減少していくんですけども、こうすれば減少のスピードが弱まるとか、それでも足りないとか、可能性のあるところが今の中身ではないような。そうしたときにICTは非常に便利、弱い組織、地域についてもスタートラインは東京の方とあまり変わらないので、特色が出せる分野である。そういうことを是非、やっていただきたい。

公会計のことについても基本的に良いことだと思います。ただし、総務省が言っているのは単式簿記の会計から企業会計を入れることですが、行革プランの43Pの63に、財政の効率化・適正化を推進するため、貸借対照表などの財務諸表を整備するとありますが、他にも行政コストを削減するという言葉もありました。データを利用してのコストの削減は日本的発想でありよくないんじゃないかと言われています。むしろデータを利用して経営戦略を決断していく。そのための情報を得るためにコンピュータを利用してデータを利用していく、企業会計でもそういうことなんですよというのが世界的な常識なんです。例えば、こういう戦略をやったらIターン、Uターンの人が何人増えたとか、増えなかったとか。増えなかったら余りよくなかったねと、やめましょうとか、変えましょうとか。ある

いはこういう風にすれば増えたとか、どこがよかったのか。もっと増やすところはないのかなど。そういう風に計画を立ててやって見て、そうしたときに財政を入れて分析してやっていく。是非、公会計を入れるときは戦略的に、各市町村、各自治体が工夫すれば良いところです。是非、ITを戦略的に活用していただければと思います。

市長政策・都市経営戦略部長

まず、雇用の問題ですが、市長の冒頭の挨拶にもあったように、第8次総合計画後期基本計画を策定おまして、その中の4つの基本目標として「暮らしづくり」「人づくり」「元気づくり」「持続可能な自治体経営の確立」をあげております。その中の「元気づくり」のなかで、地域特性を活かした産業の振興という項目を設けておまして、その中でも農業の振興、林業の振興、水産業の振興、地域産業・中小企業の支援、或いは中心市街地の活性化ということを重点的な項目として雇用の創出を目指していくものであります。

情報の発信ということですが、氷見市のホームページは平成28年の4月に、今から約2年前にリニューアルしたのですが、更に分かりやすく魅力的なホームページにするために、ホームページ検討委員会を設置いたしまして検討していただいているものでありまして、情報の発信に努めてまいりたいと思っています。

委員

いろんな過去の統計が、例えば、最近のデータしかないんですね。5年前、10年前のデータとかがないんですね。推移が分からないんです。個別にお願いすると出てくるんですが。過去のデータもこまめにあげていただくと推移が分かるというところが、大事ではないかなと思っています。

企画政策課長

氷見市の統計というものを発行させていただいておりますが、それはホームページに掲載させていただいております。過去のものも掲載させていただいておりますので、ご覧いただきまして調べていただければと思います。併せてオープンデータにつきましても、市が持っているデータについても順次二次利用できるようにしていきたいと思っています。

市長

氷見の雇用が減っているという話があったんですが、私もデータの的には把握していませんが、企業、例えば一番大きいコマツキャストイクス、コマツに合併されますが、氷見の大きな企業さんに聞きますと、募集しているけれども、中々、来てくれないということを一様に言われます。例えばコマツキャストイクスさんですと900人ちょっとですけど、1000人位にしたいんだが、それぐらいだと社内で部品を生産できるんだが、で

きないので、海外から部品を調達しているとかの話があったように、雇用環境は、氷見に企業が減っているということではなくて、まあ、人口が減っているということなのか、特に、高岡、氷見はものづくりの企業が多いわけで、そういったところの閉塞感があって雇用が減っているという形になっているのではないかなと思います。

会長

先日、氷見の職業安定所の主査の方と話しをしておりましたら氷見市においては求人倍率が高いとの話がありました。

委員
1:40:50～

氷見市公共施設再編計画を作成するにあたり、各施設の利用率であるとか、利用目的、また施設サイズであるとか、ある程度マーケティング調査等は過去にされたことがあるのかをまずお聞きしたいと思います。

都市計画課長

平成26年に公共施設インフラ白書というのもを作成しまして、その際に、各公共施設について調査を行いました。

委員

何故、お聞きしたかというのと、各施設が老朽化していると、もう古いんで解体しましょうかと書いて有るんですが、全体的に見渡したときに、どういったサイズの施設がいくつずつあって、本当に市民のニーズとあっているかがすごく大事なのかなと、例えば、会議でこういったフリースペースのところを利用するんですけど、自分たち望むようなスペースがなかったりするところがよくあるんです。そういったものを一度、全体的な統計データとして取られて、だから最終的にこういったスペースをいくつ作るんだとか、こういった体育館施設をいくつくらい残していくんだとか、この行革プランの目標と同じように、何年後にこういった数にするというものを作成された方がよいのではないかと思います。いわゆる氷見市のほうでやっておられる全体的なランドデザインの中で、いくつ、何々がいるかということ一度示された方が、もっと効率的にできると思いますし、今の新文化施設の中に、どんなスペースをいくつ作ってということも見えてくると思いますので、それをお願いしたいなと思います。

まちづくり推進部長

委員のおっしゃるとおりでありまして、利用方法でありますとか、皆さんが何を望んでおられるか把握する必要があります。今回出させていただきました再編計画につきましては、それは個別にとして、この中ではなくて、各施設の利用者を対象としたところで進めていくという考えでして、これにつきましては単純に現在ある施設をそのままの規模で更新すると

したら莫大な予算がかかります、それでいいんですかという提案だと言う風に受けとっていただきたいと思います。それで機械的に建物は何年間たつと更新の時期を迎えるということが基本になっていますので、現在のままでは駄目ですよという警鐘の一つであると受け止めていただきたいと思います。その上で皆さんの利用状況、金がかかっても必要なものは当然つくる必要がありますし、皆様とご議論いただいたときに、これは集約の方がいいのではないかと、必要ないのではないかとこの意見をいただき、進めていきたいと考えていますので、よろしくお願ひします。

委員

もう一点お願ひしたいんですが、富山県ですと、会議室とかのスペースを公共と民間と全て網羅したサイトみたいなものがある。そこにアクセスし、調べると、全部一覧表になって出てきて、どんなスペースが各施設にいくつあるとかが一目瞭然でわかる。そうすると市民の皆さん使いやすいのではないかなと思います。できたらそういったものも作っていただければ皆さんが使いやすいと思いますので、よろしくお願ひします。

まちづくり推進部長

そのように努めてまいります。よろしくお願ひします。

委員

出出勤管理をパソコンのログオン・ログオフでやると書いてあるんです。いいことだと思うんですけど、お互いにその間仕事をしている場合は結構だと思うんですが、事業主の皆さんはいつもそれで頭を悩ませているんですけれども、その数字だけが一人歩きする場合がありますね。それはそれとして皆さんの統一的な意志として、仕事をするということがどういうことなのかということをお認ひしていただかないと、よくある、ただただ待ち時間のようなものも仕事になってしまったり、本当は残業なんか必要なくても、薄く仕事してしまっただけで残業になってしまったのが、ある企業さんでは見受けられないことはないですね。そういうことが起こらないように、皆さんで上手に管理運営していただきたいと思います。管理する方の認ひがかなりレベル的にしっかりしていただかないと、どうしても楽な方に流れてしまいがちになりますので、どうぞ、その辺は皆さん認ひは新たに、合意の上でやっていただくように、非常に老婆心ですがお願ひしたいと思ひます。と言ひますのは、全て人件費、お金に跳ね返ってきますので、管理もしっかりやっていただきたいと思います。

総務部長

ご指摘、ごもっともでございます。決して、パソコンのログオン・ログオフで在庁時間は管理しておりますが、それが全て時間外勤務の申請につ

ながっているわけではございません。ただ、その時間との乖離は極力少なくして欲しいとはお願いしておりまして、逆に時間外を申請できないのであれば残っていただく必要はないので、帰ってくださいというふうな意識改革に努めているところであります。

それぞれの毎日の時間数と、申請時間は一日単位で管理職は見ることができますので、申請時間と残庁時間とに差がある場合は、赤や黄色で表示されますので、どうしてこうした差が発生したのかその理由も把握した上で、やらせていただいていますので、そういった無駄がなくなるように全体で取り組んでまいりたいと思っています。

委員

中長期財政見通しの件ですが、相当努力されたんだろうなと見受けられます。行革プランの23Pで歳入と、そして歳出についてはどれだけ抑えられるかということが記載されており、努力は本当に良く分かるんですが、このまま続けていくことについては首を傾げざるを得ない。何らかの形でそこを改善するような方法を長期で考えていく必要が出てきているのではないかと思います。特に歳入、収入の考え方、利益をあげていくという考え方を少し加えていかなければいけないのではないかと思います。これを維持していくためには、やはりそういうものをどれだけ抑えてもキリがないんですけども、プラスの部分を変えてでも考えなければいけないときが来ているような気がします。例えば、経費にしても、長期的経費、そのときそのときで対応できるのか、ということがあります。その時代にあった新しいものを行っていくということも当然、大事なので、投資的経費は平均5億円と書いてありますが、これが妥当なのかどうか分かりませんが、本来ならもっとあってもいいのではないかなとも思いますけど、そういうことも含めて、もう少し歳入、収入ということ意識されたらどうでしょうか？

総務部長

長期の収支見通しについては24Pを見ていただくと分かるんですが、この表の中でも、収支差引額のA引くBですが、貯金を入れる前の数字ですが、毎年、赤字です。いわゆる構造的な赤字です。これまで貯めてきた貯金を持っているから今後10年間はこうしたことでいけるんですが、この毎年毎年の数字も精度が高いかといわれると不案内な部分もあります。これまではそういう見通しを立てながらも実際はきちんと繰越を生じるようなことができた訳ですが、今後人口減少がいよいよ加速するなかでそうした中できちんと収入をはかって、構造的な赤字を出さないことは大事なことと思っています。市において収入をあげるとなると基本税収をあげること、やはり産業がきちんと地域において、経済が回ってそれが税と

して納入されるようなそういう経済活動を高めていかなければいけないんですけども、是非、そういう方向には進めたいとは思っていますが、この収支見通しについては毎年出ささせていただきたいと思っています。1年1年そういった方向性、良くなっているのか、悪くなっているのか、そういったものを見させていただきながら、足りない改革についてはやるべきだと思っていますので、そういった意味でご指導いただければと思います。あと投資的経費について5億円という数字ですが、これまでのベースに比べるとかなり低いんですけど、何度も使うと変に思われるかと思いますが、いわゆる過疎債というものがその時にお金がいらぬんですね。100%借金でまかなえるので、その年にあてる一般財源としては数字に出て来ないで、後年度、借金の返済という形で出てきますので、分かりにくい部分もありますが、5億円という数字は若干下がっていますが、事業費としては一定量を確保できるかなと思っています。

委員

公債費ですが、新文化施設、認定こども園、学校給食センターなどの金額は決まっているのでしょうか。

総務部長

事業費は決まっているわけではありませんが、今回試算をするにあたって金額は見込ませていただいて訳でありまして、新文化施設については約38億円の事業費を見させていただいています。その中に国の補助も15億円ほど見させていただいて、そこに過疎債などの借金、それからまた教育文化振興基金というこれまで新文化施設の建設のために積立も行ってきていますので、積立金も使わせていただくということで想定しているところであります。

認定こども園などは、一ヶ所あたり整備すると1億5千万円程度です。

委員

先月、高岡で会合があり出席した際に、その方が氷見市の職員の方の対応が素晴らしかったとの言葉をいただいた。私は自分のことのようにうれしかったです。どうしても行革と言うと、職員の削減とか、経費の削減とか、そういうことがどうしても先にきてしまう。それも大事です。だけど、やはり人と人とのつながり、それってやっぱり少し心にも余裕がないとできないんじゃないかなと、そういうことも含めて改革を進めていただきたいとそんな風に思いました。

それと行革プランの改革の概要の①で協働のまちづくりとありますが、協働は誰と誰が協働するんですかと私はいつも思うんです。協働のまちづくりにどうしても置いてきぼりになるのが、若者であったり、女性であったり、というそういうあらゆる人達が参画できるまちづくりを是非、考え

ていただきたいなど、それは市民の中でという中々難しいかなと思います。自治振興委員連合会会長の猶明さんもいらっしゃるけど、例えば地域づくり協議会にしても中々女性はその場所にいて思いを言うというのが出来る機会がないと思う。そういったところからも若者や女性の参画を是非、お願いしたいなと思います。1番心配しているのは、健全な財政運営です。子どもや孫達に大きなツケを残さないような形でのまちづくりを是非、お願いしたいなとそのように思います。

会長

意見も出尽くしたようですので、質疑を終了します。
それではお諮りします。

事務局から提案のあった氷見市行政改革プラン（案）並びに氷見市公共施設再編計画（案）を了承することとし、本日の会議での意見等を計画の実行段階で活かしていただきたいと思います。

ご異議ありませんか。

委員

異議なし

会長

異議なしと認め、よって氷見市行政改革プラン（案）並びに氷見市公共施設再編計画（案）は了承されました。

閉会にあたり、市長から一言ごあいさつをいただきます。

林市長

本日は長時間にわたりご審議いただき、誠にありがとうございます。この氷見市行政改革プラン、そして氷見市公共施設再編計画、さきほど委員の方からもありましたように、我々市政を預かっているものは孫や子の代に多大な負担を残さないというのは大前提だろうと思っています。その中で現在の市民の皆さん、お子さんからお年寄りまで、その限られた制約のなかでどのような財政運営をしたら、一番、最大限の幸せを見つけ出せるかということが大事かと思っています。こうしたプラン、そして先程もお話をさせていただきましたけれども総合計画の中で、こういうプランを見据えた上で、市民の最大限の幸せのために何を行うのかをあわせて、両方車のエンジンとブレーキとして、ハンドルさばきをしっかりとやっていきたいと思っています。

本日は、この案を示させていただいた中で、いろんなご意見をいただきました。そうしたこともしっかりと押さえながら進めてまいりたいと思います。今年度この委員会は4回になりますけれども委員の皆様には終始五年新にご議論いただきましたことに、心から感謝申し上げます、閉会の挨拶といたします。どうもありがとうございました。

会長

委員の皆様には、昨年8月から計4回の会議において熱心に議論いただき、ありがとうございました。

皆様のおかげをもちまして、予定どおり審議を終えることができました。

これからこのプラン並びに計画を実行に移していくこととなりますが、常に危機感を持って対処され、総合計画が目指す人口減少社会を乗り越える活力に満ちた元気な氷見市の実現を期待いたします。

本日はこれをもって閉会いたします。

お疲れさまでした。